

令和5年度学習書の編集・執筆方針

1. 学習書とは

通信制高校で学ぶ生徒のうち、教科書だけでは報告課題（レポート）の作成等の自学自習を進められない生徒を主な対象に、自宅等での自学自習を支援するために、教科・科目の特性等に応じた目的とする学力の育成に向け、効果・効率・魅力の高い教材となるよう、学習書を編集・執筆する。

2. 学習書の対象

・教科書だけで自学自習を進められない、余力のない生徒に視点を合わせ、自宅等での自学自習を支援するための教材として編集・執筆する。

※余力のある生徒の指導は各学校の補助教材・面接指導に任せるべきである。

・「学習意欲が低い」「義務教育段階も含めた既習の学習内容が定着していない」「自学自習の方法が身につけていない」などの問題を学習者自身が意識し、改善できるよう工夫する。

※学習書を活用する過程で、自学自習の方法が身につくように設計を工夫する。

3. 学習書の構成

・必ずしも教科書の全内容を扱うことを前提としない。

※教科書の内容の中でも基礎的・基本的な内容を精選して扱う。

・学習書はあくまで教科書での自学自習をサポートするものであるため、取り扱う内容や学習項目については、教科書に準拠する。生徒の理解のため教科書にない項目、内容にまで踏み込む場合は全通研、共同執筆者の了解を得ることを条件とする。ただし、学習効果という観点から、学習内容は教科書よりもスモールステップを踏み、小単元をより細分化したり、教科書で取り上げられていない義務教育段階の復習に関する部分を取り扱ったりすることも検討する。

・教科書の単元に合わせ、それぞれの小単元の冒頭で習得すべき知識や能力を学習目標としてできるだけ具体的に明示し、学習者自身が学習目標を達成できたかを確認できる問題も掲載することで、振り返りをしたときに、自身の成長を実感できる構成を工夫する。

4. 学習書の内容

- ・添削指導や面接指導で気づいた、学習者の陥りやすい、よくある間違いも掲載する。
- ※ 教科書には正しい（良い）解答例しか掲載されていないことが多いため、学習書では誤った（良くない）解答例を積極的に掲載することで、生徒が自学自習で見出した解答の真否をより正確に自己評価できるようにする。

- ・文章による説明に加え、それを補完する意味で、フローチャートや模式図などの図や、思考・判断の資料となる写真やグラフ等を必要に応じて使用し、視覚的な理解を促す。

- ・一般的で厳密な説明は教科書に譲り、学習書では具体例を用いた説明で、修得すべき知識をイメージとして捉えることも大切にし、目的とする能力の育成に寄与する。

- ・教科書と違い、語りかける口調で記述するなど、読みやすさと親しみやすさを心掛ける。
- ※ 学習書は生徒の自学自習に寄り添い、支援する教材であることを感じさせる。

- ・各教科・科目の特性等を踏まえ、効果・効率・魅力の高い教材となるよう工夫する。